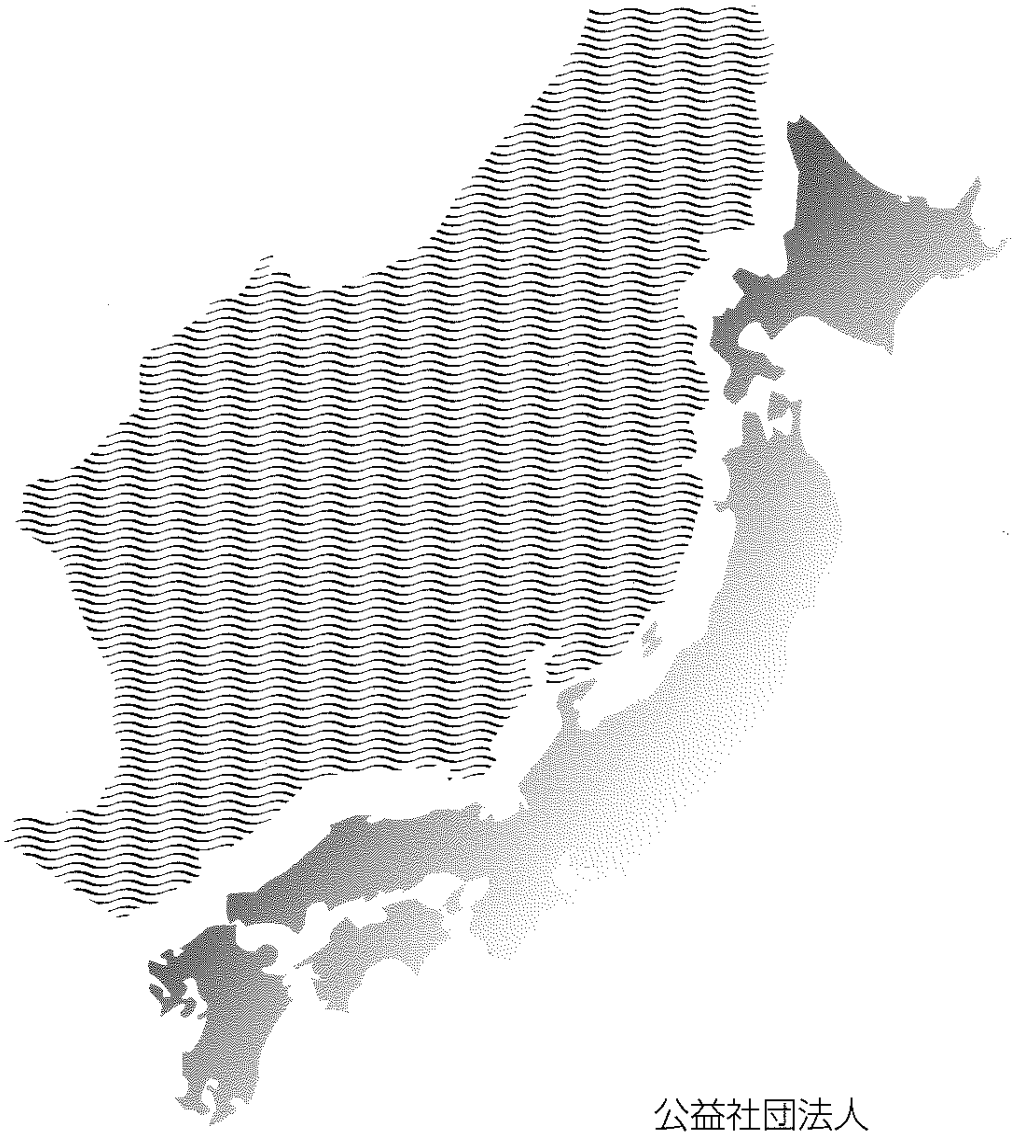
会報

第116号



公益社団法人
日本海海難防止協会

目　　次

Ⅰ　事業報告 1
Ⅰ－１　調査研究 1
１　新潟ＬＮＧバースにおける新型式ＬＮＧ運搬船の航行安全調査 1
1-1　第１回委員会 1
1-2　ビジュアル操船実験 2
1-3　作業部会 2
２　金沢港大型客船入出港に係る航行安全調査 3
2-1　第１回委員会 3
2-2　ビジュアル操船実験 3
３　敦賀港大型客船入出港に係る航行安全調査 4
3-1　第１回委員会 4
3-2　第１回作業部会 5
3-3　第２回委員会 5
3-4　ビジュアル操船実験 5
４　ＬＮＧ船の津波対応緊急離桟に関する調査 6
4-1　公開ビジュアル操船実験 6
4-2　第２回調査会 6
５　舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査 7
5-1　第１回委員会 7
5-2　第２回委員会 8
5-3　ビジュアル操船実験 8
Ⅰ－２　海難防止の周知宣伝 9
１　平成 27 年度冬季海難防止強調運動の実施について 9
1-1　目的 9
1-2　実施期間 9
1-3　対象船舶 9
1-4　重点事項 9
1-5　実施事項 9
２　小型船舶への簡易型ＡＩＳ搭載の普及について 10

Ⅱ　会務報告 11
Ⅱ－１　業務日誌抄 11
Ⅱ－２　業務予定 12
Ⅲ　寄 稿 欄 13
　　舞鶴の神様たち（金毘羅大権現） 13
Ⅳ　連絡事項 18
☆　会員名簿の変更 18

Ⅰ　事業報告

Ⅰ－１　調査研究

１　新潟ＬＮＧバースにおける新型式ＬＮＧ運搬船の航行安全調査

委員会の構成　（順不同・敬称略）

「委　員」

（委員長）日當　博喜　海上保安大学校　名誉教授

遠藤　　真　富山高等専門学校　教授

久古　弘幸　一般社団法人日本船長協会　副会長

西村　陽造　新潟水先区水先人会　会長

信田　拓志　新潟港船舶代理店会　事務局
（株式会社リンコーコーポレーション東港支社　船舶業務部長）

伊藤　則彦　日本海曳船株式会社　常務取締役

「関係官公庁」

第九管区海上保安本部　交通部

新潟海上保安部

北陸地方整備局　新潟港湾・空港整備事務所

新潟地方気象台

新潟県　新潟地域振興局　新潟港湾事務所

「オブザーバー」

東北電力株式会社

日本海エル・エヌ・ジー株式会社

1-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：平成 27 年９月 30 日(水)

(2)　場　　所：新潟市　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟

(3)　議　　題：

①　調査・検討の計画について

②　対象ＬＮＧバース及び対象船舶について

③　新潟港(東港区)の現況について

④　航行環境について

⑤　ビジュアル操船実験方案について

⑥　係留動揺シミュレーション方案について

1-2　ビジュアル操船実験

(1)　開 催 日：平成 27 年 10 月 26 日(月)～27 日(火)
(2)　場　　所：川崎市　株式会社日本海洋科学

1-3　作業部会

(1)　開 催 日：平成 27 年 11 月 10 日(火)
(2)　場　　所：新潟市　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟
(3)　議　　題：
　①　第１回委員会の質疑・対応について
　②　ビジュアル操船実験結果について
　③　係留動揺シミュレーション結果について
　④　航行安全対策案について

２　金沢港大型客船入出港に係る航行安全調査

委員会の構成　（順不同・敬称略）

「委　員」
（委員長）大津　皓平　東京海洋大学　名誉教授
遠藤　　真　富山高等専門学校　教授
久古　弘幸　一般社団法人日本船長協会　副会長
木下　　博　七尾水先区水先人会　会長
東川　昌樹　株式会社金沢港運　海務部　次長
「関係官公庁」
第九管区海上保安本部　交通部
金沢海上保安部
北陸地方整備局　金沢港湾・空港整備事務所
金沢地方気象台

2-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：平成 27 年 10 月 6 日(火)
(2)　場　　所：金沢市　金沢都ホテル
(3)　議　　題：
①　大型クルーズ客船の入港計画等について
②　調査・検討の計画(案)について
③　金沢港の現況について
④　航行環境について
⑤　操船に係る基礎検討について
⑥　操船シミュレーションによる検討方案について

2-2　ビジュアル操船実験

(1)　開 催 日：平成 27 年 11 月 25 日(水)～26 日(木)
(2)　場　　所：東京都　株式会社ＭＯＬマリン

３　敦賀港大型客船入出港に係る航行安全調査

委員会の構成　（順不同・敬称略）

「委　員」

（委員長）寺本　定美　海上保安大学校　名誉教授
遠藤　　真　富山高等専門学校　教授
久古　弘幸　一般社団法人日本船長協会　副会長
三反崎紀夫　福井県水先人会　敦賀港水先人
藤田　紀雄　敦賀海陸運輸株式会社　常務取締役
小堀八寿雄　日動海運株式会社　代表取締役
三上　立人　敦賀セメント運輸株式会社　代表取締役社長
高瀬　　貢　敦賀ターミナル株式会社　代表取締役社長
寺田　光徳　新日本海フェリー株式会社敦賀支店　支店長
塚本　　明　北陸電力株式会社敦賀火力発電所　所長
中村　尊子　近海郵船株式会社敦賀事務所　所長
濵上　貞和　敦賀市漁業協同組合　代表理事組合長
山本　時夫　福井県小型船交通安全対策協議会　事務局長

「関係官公庁」

第八管区海上保安本部　交通部
敦賀海上保安部
中部運輸局　福井運輸支局（敦賀庁舎）
北陸地方整備局　敦賀港湾事務所
福井地方気象台

3-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：平成 27 年 10 月８日(木)
(2)　場　　所：福井市　ユアーズホテルフクイ
(3)　議　　題：
①　大型クルーズ客船の入港計画について
②　調査・検討の計画について
③　敦賀港の現況について
④　航行環境について
⑤　操船に係る基礎検討について
⑥　操船シミュレーションによる検討方案について

3-2　第１回作業部会

(1)　開 催 日：平成 27 年 11 月 24 日(火)
(2)　場　　所：福井市　福井県庁　会議室
(3)　議　　題：
　①　第１回委員会の質疑・対応について
　②　操船に係る基礎検討(許容接岸速度)について
　③　ビジュアル操船実験方案について

3-3　第２回委員会

(1)　開 催 日：平成 27 年 11 月 30 日(月)
(2)　場　　所：福井市　ユアーズホテルフクイ
(3)　議　　題：
　①　第１回委員会の質疑・対応について
　②　操船に係る基礎検討(許容接岸速度)について
　③　ビジュアル操船実験方案について

3-4　ビジュアル操船実験

(1)　開 催 日：平成 27 年 12 月８日(火)～９日(水)
(2)　場　　所：東京都　株式会社ＭＯＬマリン

４　ＬＮＧ船の津波対応緊急離桟に関する調査

調査会の構成　（順不同・敬称略）

「委　員」
（委員長）大津　皓平　東京海洋大学　名誉教授
久古　弘幸　一般社団法人日本船長協会　副会長
西村　陽造　新潟水先区水先人会　会長
伊藤　則彦　日本海曳船株式会社　常務取締役
「関係官公庁」
第九管区海上保安本部　交通部
第九管区海上保安本部　警備救難部
新潟海上保安部
新潟県　新潟地域振興局　新潟港湾事務所

4-1　公開ビジュアル操船実験

(1)　開 催 日：平成 27 年 10 月 9 日(金)
(2)　場　　所：川崎市　株式会社日本海洋科学

4-2　第２回調査会

(1)　開 催 日：平成 27 年 11 月 17 日(火)
(2)　場　　所：新潟市　万代シルバーホテル
(3)　議　　題：
①　第１回調査会質疑・対応について
②　ビジュアル操船実験結果について
③　津波対応緊急離桟手順について
④　津波対応緊急離桟訓練要領案について
⑤　報告書構成案について

５　舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査

委員会の構成　（順不同・敬称略）

「委　員」

（委員長）寺本　定美　海上保安大学校　名誉教授
日當　博喜　海上保安大学校　名誉教授
久古　弘幸　一般社団法人日本船長協会　副会長
上野　善洸　舞鶴水先区水先人会　会長
河地　俊行　〃　副会長
篠原　忠臣　飯野港運株式会社　専務取締役
久保　　勝　舞鶴倉庫株式会社　取締役舞鶴事業部長
小東　雅幸　日本通運株式会社　舞鶴海運支店　支店長
原　　正朗　ジャパンマリンユナイテッド株式会社舞鶴事業所　ドックマスター
近江　喜彦　新日本海フェリー株式会社　舞鶴支店　支店長
滝本　惠介　関西電力株式会社　舞鶴発電所　計画課長
鍵本　房男　舞鶴曳船株式会社　代表取締役
西川順之輔　京都府漁業協同組合　代表理事組合長
山田　悦子　京都府小型船安全協会　事務局長

「関係官公庁」

第八管区海上保安本部　交通部
舞鶴海上保安部
近畿地方整備局　舞鶴港湾事務所
京都地方気象台
海上自衛隊舞鶴総監部
舞鶴市産業振興部　みなと振興・国際交流課

5-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：平成 27 年 10 月 19 日(月)
(2)　場　　所：舞鶴市　舞鶴グランドホテル
(3)　議　　題：
①　大型クルーズ客船の入港計画について
②　調査・検討の計画について
③　舞鶴港の現況について
④　航行環境について
⑤　操船に係る基礎検討について
⑥　操船シミュレーションによる検討方案について
⑦　係留の安全性に係る検討について

5-2　第２回委員会

(1)　開 催 日：平成 27 年 11 月 20 日(金)
(2)　場　　所：舞鶴市　舞鶴グランドホテル
(3)　議　　題：
　①　第１回委員会の質疑・対応について
　②　操船に係る基礎的検討について
　③　係留の安全性の検討について
　④　数値シミュレーション結果について
　⑤　ビジュアル操船実験方案について

5-3　ビジュアル操船実験

(1)　開 催 日：平成 27 年 12 月 24 日(木)～25 日(金)
(2)　場　　所：川崎市　株式会社日本海洋科学

Ⅰ－２　海難防止の周知宣伝

１　平成 27 年度冬季海難防止強調運動の実施について

第九管区海上保安本部では､以下により平成 27 年度における冬季海難防止強調運動を実施した。

1-1　目的

日本海中部地方における冬季は、発達した低気圧の通過及び冬型の気圧配置により荒天が続くことから、気象・海象不注意、荒天対策準備不足等による海難の発生が懸念されるため、冬季を前に船舶関係者等を対象に適切な荒天対策等について集中的に注意を呼びかけ、冬季の海難の未然防止を図ることとした。

1-2　実施期間

平成27年11月１日(日)から同年11月15日(日)まで(15日間)

1-3　対象船舶

貨物船、漁船及びプレジャーボート

1-4　重点事項

(1)　冬季海難防止の一般的な重点事項

①　天候悪化が予想される場合の航海計画の見直しと早期避難(全船)

②　荒天時における錨泊中の船位確認の励行及び荷崩れ防止対策の徹底(貨物船)

③　荒天に備えた適切な係留、保管(漁船、プレジャーボート)

(2)　海難統計に基づく重点事項

①　港内における荒天時の適切な操船(貨物船【特に外国船】)

②　高齢者に対する安全運航啓発(小型船【特に漁船】)

1-5　実施事項

以下により周知・啓発を図った。

(1)　各漁協、各マリーナ及び船舶代理店等の巡回に併せ、ポスターの掲示及びリーフレットの配布

(2)　対象船舶への訪船による海難防止指導

(3)　ＭＩＣＳ利用にかかる周知等

(4)　各種活動への報道関係者の同行取材の呼びかけ等、各種メディアを活用した広報活動

２　小型船舶への簡易型ＡＩＳ搭載の普及について

ＡＩＳは、自船の位置、速度、進行方向などの情報を自動的に送受信する無線設備で、ＡＩＳの搭載普及により、船舶の衝突防止や安全運航管理に効果が期待される。

国際航海に従事する大型船舶には搭載が義務化されているが、小型船には搭載の義務がないことから、ＡＩＳの普及が進んでいないのが現状である。

このことから､小型船舶に対する簡易型ＡＩＳ搭載の普及の必要性を周知宣伝して、簡易型ＡＩＳの搭載を普及させることにより、小型船舶の海難の減少に資することとする。

（末尾添付資料参照。）

Ⅱ　会務報告

Ⅱ－１　業務日誌抄

月　　日	内　　容
９月 30 日(水)	新潟ＬＮＧバースにおける新型式ＬＮＧ運搬船の航行安全調査 第１回委員会　（新潟市）
10 月　６日(火)	金沢港大型客船入出港に係る航行安全調査　第１回委員会　（金沢市）
10 月　８日(木)	敦賀港大型客船入出港に係る航行安全調査　第１回委員会　（福井市）
10 月　９日(金)	ＬＮＧ船の津波対応緊急離桟に関する調査　公開ビジュアル操船実験 （川崎市）
10 月 19 日(月)	舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査　第１回委員会　（舞鶴市）
10 月 26 日(月) ～27 日(火)	新潟ＬＮＧバースにおける新型式ＬＮＧ運搬船の航行安全調査 ビジュアル操船実験　（川崎市）
11 月　９日(月)	平成 27 年度日本海中部地区洋上救急支援協議会総会出席　（新潟市）
11 月　９日(月) ～10 日(火)	全国海難防止団体等連絡調整会議出席　（横浜市）
11 月 10 日(火)	新潟ＬＮＧバースにおける新型式ＬＮＧ運搬船の航行安全調査 作業部会　（新潟市）
11 月 17 日(火)	ＬＮＧ船の津波対応緊急離桟に関する調査　第２回調査会　（新潟市）
11 月 20 日(金)	舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査　第２回委員会　（舞鶴市）
11 月 24 日(火)	敦賀港大型客船入出港に係る航行安全調査　第１回作業部会（福井市）
11 月 25 日(水) ～26 日(木)	金沢港大型客船入出港に係る航行安全調査 ビジュアル操船実験　（東京都）
11 月 30 日(月)	敦賀港大型客船入出港に係る航行安全調査　第２回委員会　（福井市）
12 月　８日(火) ～　９日(水)	敦賀港大型客船入出港に係る航行安全調査 ビジュアル操船実験　（東京都）
12 月 24 日(木) ～25 日(金)	舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査 ビジュアル操船実験　（川崎市）

Ⅱ－２　業務予定

(1)　新潟ＬＮＧバースのおける新形式ＬＮＧ運搬船の航行安全調査

第２回委員会　　１月 14 日

(2)　金沢港大型客船入出港に係る航行安全調査

作業部会　　１月 19 日

第２回委員会　　２月　４日

(3)　敦賀港大型客船入出港に係る航行安全調査

第２回作業部会　１月 20 日

第３回委員会　　２月 19 日

(4)　舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査

作業部会　　２月　９日

第３回委員会　　２月 15 日

(5)　岩船沖洋上風力発電事業に係る航行安全調査

第１回委員会　　１月 25 日

ビジュアル操船実験　２月 22 日～23 日

(6)　会報第 117 号発行　　５月中旬

Ⅲ　寄 稿 欄

舞鶴の神様たち（金毘羅大権現）

元舞鶴事務所長　山本　勝眞

私が住んでいるのは舞鶴市の西地区にある昭和台というところですが、その隣に「福来」という地区があります。

そこには食料品や日用雑貨を扱うミニスーパーがありますので、よく訪れるのですが、そのスーパーの裏側の小高い場所に、立派な石の鳥居や燈籠があります。

福来地区側の鳥居（竹藪の中）

ところが、付近は竹藪で覆われていて、参道らしきものも見当たらず、簡単には登ることができそうにありません。また鳥居には掲額もありません。

近所の人に聞いても、「なんでも山のズーっと上のほうに社があるとは聞いているけど詳しいことはわからん。」との答え。

参道（と思われる‥‥‥）の藪を見ると「さもありなん。」って感じです。

以前から大変気になっていて、いつかは調べてみたいなと思っていました。

一方、今年の４月から、地域防犯推進協議会の防犯推進委員（ボランティア活動）をしていまして、この福来地区を含めた数個の町内会を巡回するようになったのですが、巡回路のひとつに「天台」という地区があり、その町内の奥のほうにも、立派な石の鳥居が私の目にとまっておりました。

こちらは、ちゃんとした参道が付随してありまして、当然私の調査対象に加えておりました。

夏のある日の巡回中、天台地区で田仕事をしておられた長老の方に、「山の上に神社があるのですか？」とたずねたところ、「だいぶん上のほうへ上がったところに、金毘羅さんがあるよ。」とのことでした。

天台地区側の鳥居

また、その長老からは、地元の人たちにより毎年１月、４月、11 月に例祭を行っていること。

昔は、天台地区から福来地区、遠くは吉原地区（漁港）のほうからも大勢の人たちが祭りに参加していたこと。

現在、例祭は、天台地区の人たちが中心になって行っていること。

住民の高齢化で、山の上での例祭は４月だけにして、１月と 11 月は山のふもとで行っていること。

などなど、この神社に関する貴重なお話を伺うことができましたが、その中で、気になったのが、「昔は福来地区の住人達も･････････」という話でした。

現在、天台、福来周辺は、すっかり住宅地に変貌しましたが、昔はこの辺りは、民家は少なく、ほとんど田んぼや畑だったところで、天台地区、福来地区を結ぶ道も、畦道のようなものだったそうです。

やっと、福来地区の、例の参道が竹藪で覆われた石の立派な鳥居の存在の謎が解けました。

つまり、その鳥居は福来地区側（西側）から金毘羅大権現へお参りするもう一つの玄関口になっていたのです。

ちなみに福来側の鳥居と天台川の鳥居とは、山を挟んで直線距離にして約 1,000 メートルほどはあります。

９月 23 日の秋分の日は、大変素晴らしい好天に恵まれ意を決して、神社に登ってみることにしました。天台地区から彼岸花の咲誇る道を、例の鳥居にアプローチ。

田んぼの中にしっかりとした参道があって、燈籠が道の両側にそれぞれ立っており、その４～50 メートル奥に石の鳥居があります。

参 道 入 口

鳥居には「鴻巣山」（こうのすざん）とかかれた木製の掲額あり、鴻巣山とは神社の山号です。

10 時 05 分登り開始。鳥居のふもとに「五丁」と刻印された石塚があります。神社までの道のりを表したものです。

一丁は普通、約 110 メートルだそうですから、上まで 500 メートル強というところでしょうか。栗の実やどんぐりがいっぱい落ちていて、道端はイノシシ君の耕した跡（ミミズや虫を掘り起こしたもの）もそこらじゅう、イノシシ君の大切なテリトリーと見られます。

参道途中の休憩所

しかし、参道は、距離はさほどでもなく、また荒れている様子もないのですが、大変な急坂で、ゆっくりとした足取りで登っても息が切れるほどです。

三丁と四丁の間に休憩所も設けてあります。

休憩所は、まだ新しい建物のようですから、高齢化した住民のために最近建てられたものと思われました。

「これでは、山上での例祭が年一回となったのは仕方がないなぁ～。」と納得しながら、登りはじめてほぼ 20 分後、やっと神社に到着しました。

神社は、銅板葺きの平入形式で、造りがどことなく四国の金毘羅大権現（総本山）を思わせる形ですが、屋根頂部の棟両端のシャチ鉾と鬼瓦が、神社としては「ン？」といった感じではありました。

山上のご本殿

本殿にも、この神社の山号の「鴻巣山」と書かれた掲額があり、本殿内部を覗くと、「金毘羅大権現」と染め抜かれた赤い大きな提灯がつり下げられ、その奥に祭壇があるようです。

境内には「弘化２年 10 月」（1845 年、徳川政権末期）と刻印した燈籠がある

ので、その時代にはこの山の上にあったものと思われます。

棟の鬼瓦や、シャチ鉾はこの社を建て替えまたは修復されたときに銅板葺きとともに設置されたものと思われます。詳細はわかりませんがおそらく近年のものでしょう。

祭神は金毘羅大権現ですから「大物主尊（おおものぬしのみこと）」ということになります。

讃岐の金毘羅大権現から勧請されたものでしょう。

大物主尊の正体については諸説ありますが、原田常次（古代日本史研究家）氏によれば「天照国照彦天火明奇甕玉饒速日尊（あまてらすくにてらすひこあめのほあかりくしみかたまにぎはやひのみこと）（初代神武天皇以前、大和に君臨した大王）である」です。（私はこの説を盲信しておりますので、この説で話を進めていきます。）

大物主尊は、四国の金毘羅様として祀られているだけでなく、奈良の桜井市三輪町（三輪素麺で有名）にある大神神社（おおみわじんじゃ）の主祭神として祀られておられるほか、布留御魂大神（ふるのみたまのおおかみ）（天理市石上神宮（いそのかみじんぐう））、日本大国魂大神（やまとのおおくにのみたまのおおかみ）（天理市大和神社（おおやまとじんじゃ））、家都御子大神（けちみこのおおかみ）（和歌山本宮町熊野大社）、賀茂別雷神（かもわけいかづちのかみ）（京都市北区上賀茂神社）、大山咋大神（おおやまくいのおおかみ）（大津市坂本町日吉神社）の名で、全国の名だたる大社に祀られておられます。

もうだいぶ前に本シリーズで触れましたが、出雲の素戔嗚尊（すさのおのみこと）のお子神様ですが、記・紀（古事記、日本書紀）の編纂者の意図により古代の歴史から消された、神武天皇以前に大和を支配されていた方です。

このあたりの説をいろいろ書きますと、ページを要しますので省略させていただきます。

境内社

余談ですが、この金毘羅神社のお祭りは、「青葉山天台寺」（神社登口の鳥居から東へ100メートルのところにあるお寺）の僧侶が行っておられるということです。残念ながら、どういった経緯でいつごろからそうなったのかは、わかりませんでしたが、昔に神仏習合の時代があったことを思えば、全く不思議ということもいえません。ただ、明治以後では

珍しい例だと思っています。

舞鶴市内で神主のいらっしゃらない、神社の例祭は、市内の大きな神社の神主さんが、出張してお祭りされるのが普通なのですが、この神社だけは違うとのことでした。

なお、境内には、本殿の北側に境内社（ご祭神不詳）や江戸時代の古い石灯籠、昭和になって作られた石灯籠などもありました。

私が登った時は、若干雑草がのびていましたが、これも山上の神社であることをおもえば、地区の方々の高齢化などとともにいたしかたないのかもしれませんね。

右の写真は、ご本殿正面の掲額で「鴻巣山」と彫刻されています。

本殿正面掲額

Ⅳ　連絡事項

☆　会員名簿の変更

現在発行している会員名簿の変更です。

○　会社・団体名等の変更

頁	（旧）　会　社・団　体　名	（新）　会　社・団　体　名
2	ＪＸ日鉱日石エネルギー㈱	ＪＸエネルギー㈱
9	電気化学工業㈱	デンカ㈱

○　指定代表者等の変更

頁	会　社・団　体　名	指定代表者職氏名	担当者職氏名
2	秋田石油備蓄㈱	男鹿事業所取締役所長 石　塚　静　夫	男鹿事業所環境安全課課長 三　森　湖太郎
5	全農グリーンリソース㈱	新潟支店支店長 柿　村　一　夫	新潟支店操業課課長 古　畑　義　和
6	中部電力㈱	上越火力発電所所長 奥　村　桂　三	上越火力発電所業務課長 島　田　正　道
8	㈱不動テトラ	北陸支店支店長 袖　山　和　志	北陸支店安全環境課長 奥　田　武　志
11	七尾海陸運送㈱	取締役社長 大　森　信　夫	常務取締役 川　島　光　雄
13	日本原子力発電㈱	執行役員敦賀発電所長 師　尾　直　登	敦賀発電所 総務室経理マネージャー 一　宮　利　明
15	山陰旋網漁業協同組合	代表理事組合長 白　須　邦　夫	専務理事 米　村　健　治

○　代表者等の変更

頁	会　社・団　体　名	代表者職氏名	担当者職氏名
19	東北電力㈱秋田火力発電所	所　長 山　田　伸　二	総務課長 米　屋　聡　志
〃	東北電力㈱佐渡営業所	所　長 和　田　　健	副所長 高　野　　衛

○　ＦＡＸ番号の変更

頁	会　社・団　体　名	ＦＡＸ
16	浜田港運㈱	0855-27-3409